

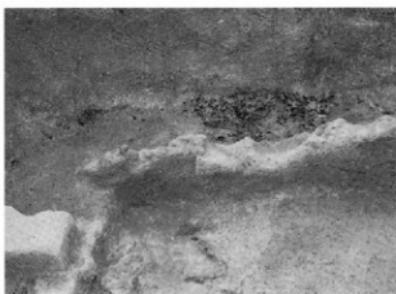
①割竹形木棺（東から）



②割竹形木棺（北から）



③炭化物出土状況（南から）



④掘方西側内炭化層



⑤遺物出土状況（北から）



⑥鉄針出土状況



⑦鏡出土状況



⑧鏡取り上げ後

G-3号墳1号主体部



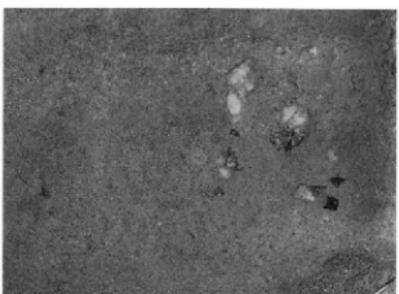
① 鉄矛出土状況



② 鉄矛出土状況



③ 鉄矛出土状況



④ 棺外土器出土状況



⑤ 床面赤色顔料検出状況（縫内）



⑥ 棺台（C-C'）土層



⑦ 棺台（D-D'）土層



① ピット 1



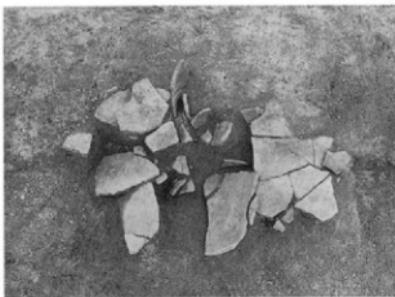
② 2号主体部検出状況（南から）



③ 1号主体部掘方（北から）



④ 2号主体部（東から）



⑤ 2号主体部（東から）



⑥ 3号主体部（東から）



⑦ 3号主体部玉出土状況

G-3号墳1~3号主体部



① G-4・5号墳墳丘遺存



② G-4・5号墳地山整形

G-4・5号墳



①現況



②石室現況



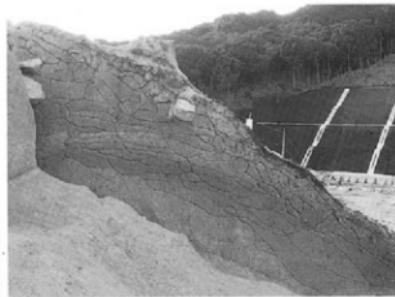
③埴丘遺存（東から）



④埴丘遺存（南から）



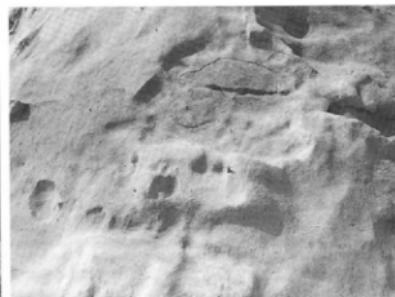
⑤ベルトⅢ土層



⑥ベルトⅡ土層



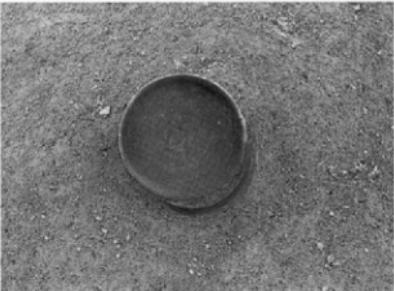
⑦ベルトⅠ土層



⑧地山整形（南東から）



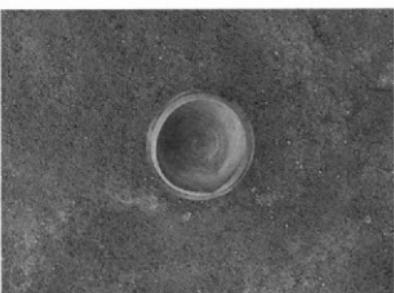
① 填丘土器A出土状况



② 填丘土器C出土状况



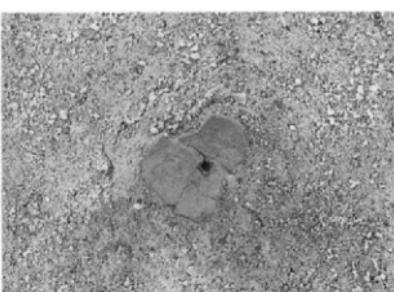
③ 填丘土器D出土状况



④ 填丘土器B出土状况



⑤ 填丘土器E出土状况



⑥ 填丘土器出土状况



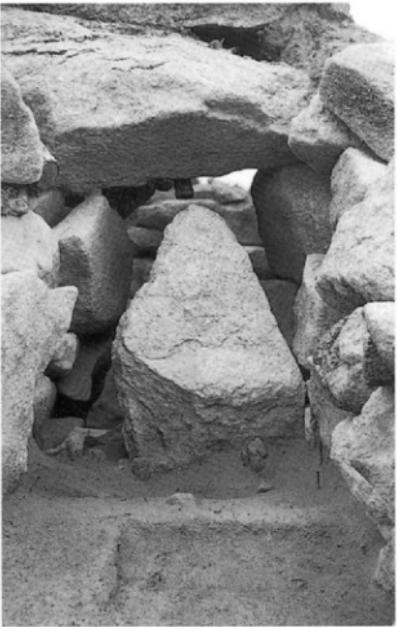
⑦ 石室积石落下状况



⑧ 石室积石落下状况



①閉塞石



③閉塞石（横道部から）



④玄室



⑥奥壁右隅



⑤奥壁



① 玄室右側壁



② 玄室左側壁



③ 羨道部



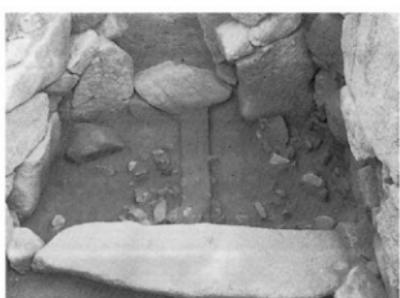
④ 墓道



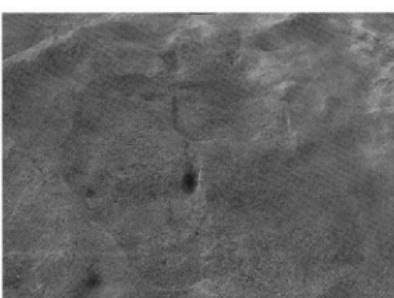
⑤ 玄室遺物出土状況



⑥ 玄室遺物出土状況



⑦ 玄室床下検出状況



⑧ 石室内土坑（東から）



①現況（南西から）



②石室入口現況（北東から）



③墳丘遺存（西から）



④墳丘遺存（南から）



⑤墳丘遺存（南東から）



⑥石室入口



⑦地山整形（南西から）



⑧地山整形（東から）



① 玄室奥壁



③ 奥壁左隅



④ 右側壁



⑤ 左側壁



⑥ 羨道部右壁・墓道



⑦ 羨道部左壁・墓道



①現況（西から）



②現況（南から）



③墳丘遺存（北から）



④墳丘遺存（東から）



⑤地山整形（北から）



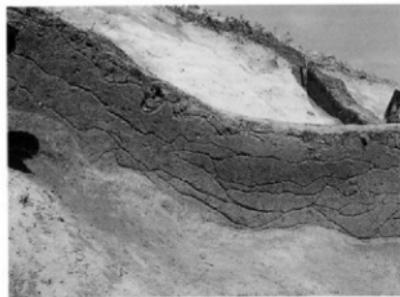
⑥地山整形（南から）



⑦地山整形近景（東から）



⑧墳丘遺存遠景（南から）



①ベルトⅢ土層



②ベルトⅠ土層



③墓道部天井石落下状況



④墓道全景



⑤閉塞石



⑥玄室奥壁



⑦玄室右壁奥



① 玄室右壁下



② 玄室左壁



③ 玄室右壁前



④ 羨道部遺物出土状況



⑤ 羨道部遺物出土状況



⑥ 石室俯瞰（北から）



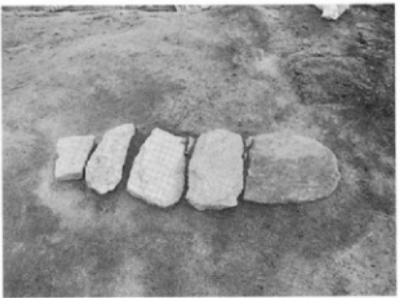
⑦ 石室俯瞰（西から）



⑧ 石室右壁腰石



① G-7号墳墳丘土層断面



② G-7号墳主体部蓋石



③ G-7号墳全景（東から）



④ G-7号墳主体部掘方



⑤ G-8号（東から）



⑥ G-8号蓋石（東から）



⑦ G-8号遺物出土状況



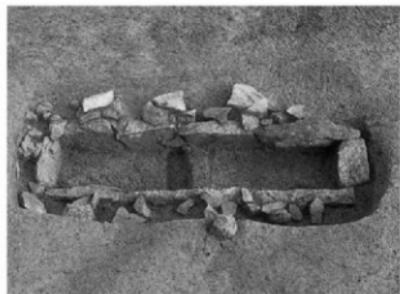
⑧ G-8号掘方（東から）



① 3-A・B区周辺全景



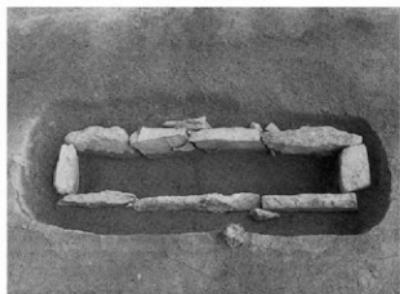
② G-10号蓋石（西から）



④ G-10号（西から）



③ G-10号蓋石（南から）

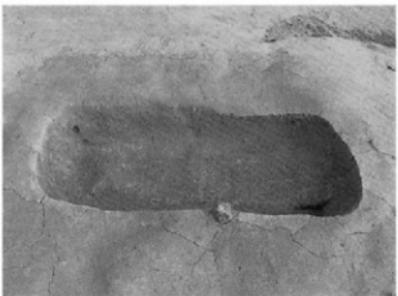


⑤ G-10号石棺（西から）

3-A・B区周辺・G-10号



① G-10号石棺（南から）



② G-10号石棺掘方（西から）



③ G-12号蓋石（東から）

④ G-12号蓋石（北から）



⑤ G-12号石棺（西から）



⑥ G-12号石棺掘方（西から）



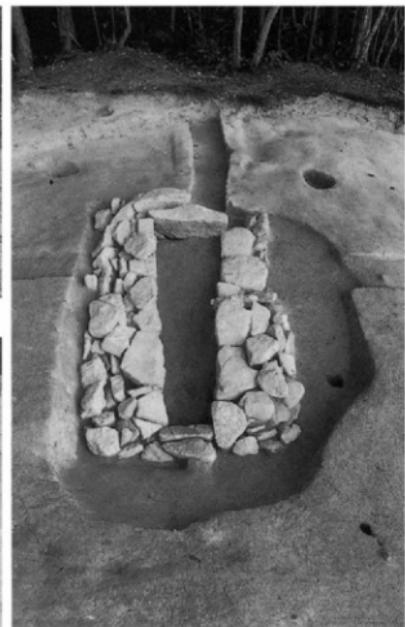
①全景



②現況（西から）



③周溝土層



④石室（西から）

G-11号填



① 穹穴式石室天井石状態（南から）



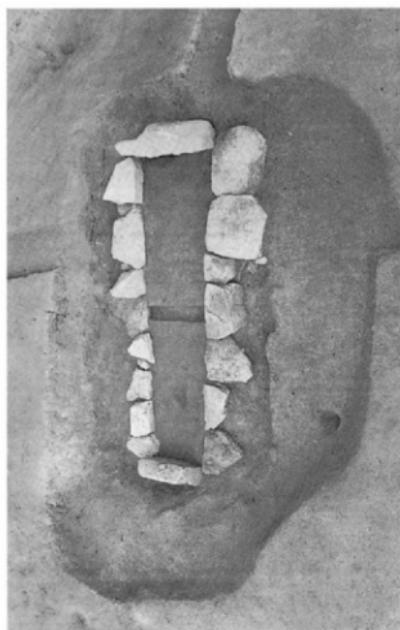
② 天井石（西から）



③ 穹穴式石室天井石除去後（南から）



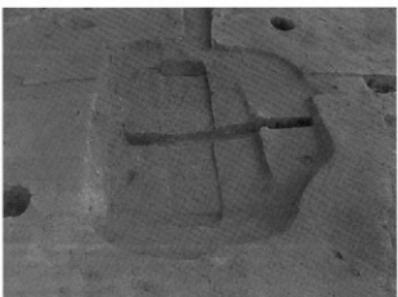
④ 石室内刀子出土状況



⑤ 穹穴式石室一段目石材（西から）



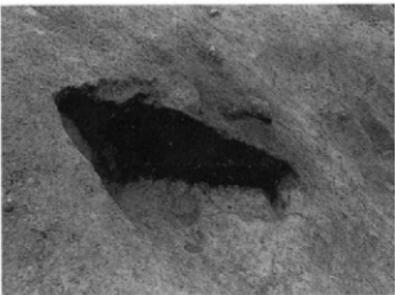
⑥ 石室内玉出土状況



⑦ 石室掘方（西から）



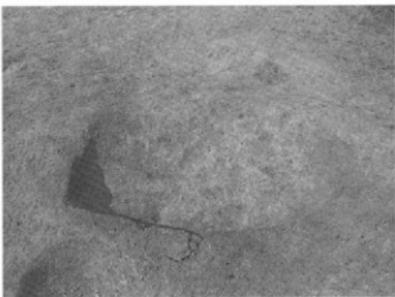
① SK 101



② SK 101土層



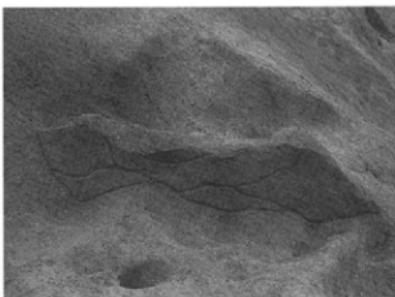
③ SK 102



④ SK 103



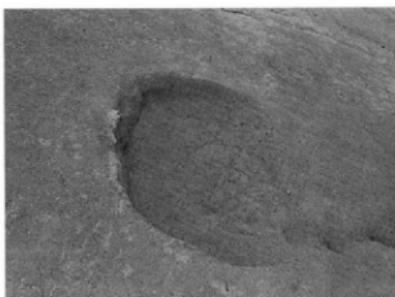
⑤ SK 104



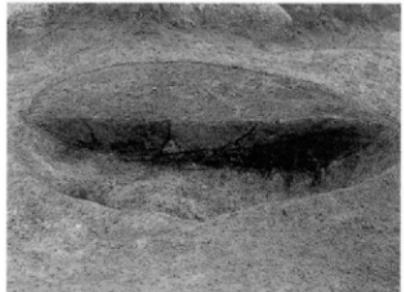
⑥ SK 104土層



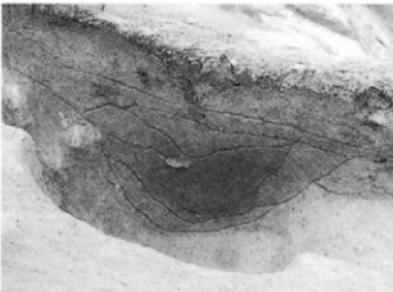
⑦ SK 105土層



⑧ SK 105



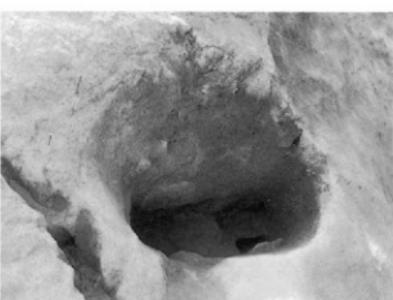
① SK 106土層



② SK 107土層



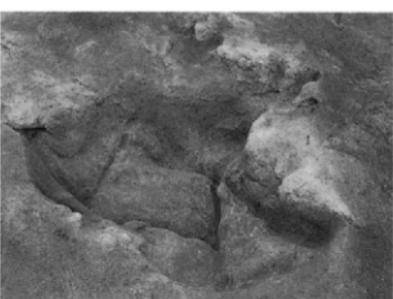
③ SK 108



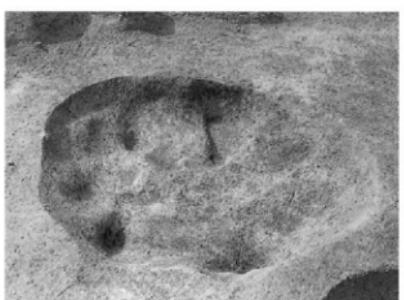
④ SK 107



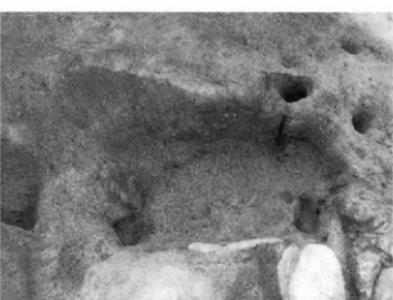
⑤ SK 109土層



⑥ SK 108



⑦ SK 109



⑧ SK 106



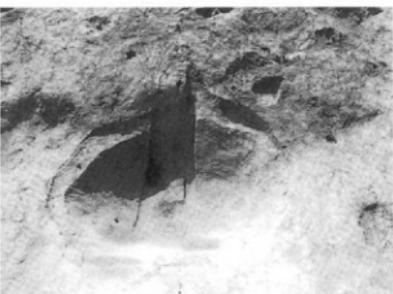
① SK 110



② SK 111



③ SK 112 土層



④ SK 112



⑤ SK 117



⑥ SK 118



⑦ SK 119 土層



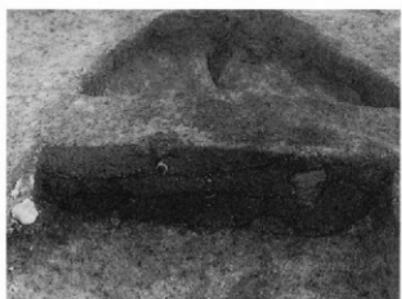
⑧ SK 119



① SK 120土層



② SK 120



③ SK 121土層



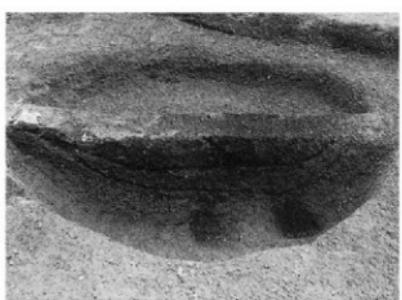
④ SK 121



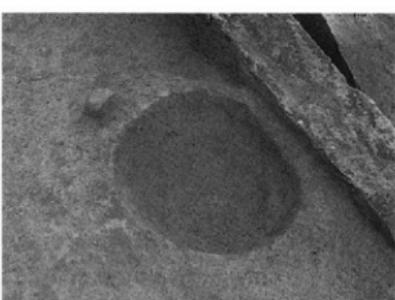
⑤ SK 122土層



⑥ SK 122



⑦ SK 125土層



⑧ SK 125



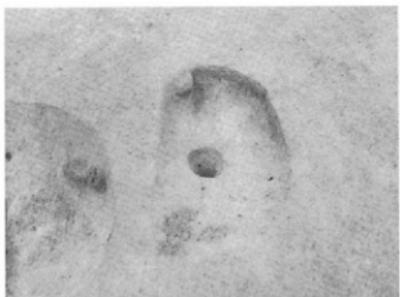
① SK 126 土層



② SK 126



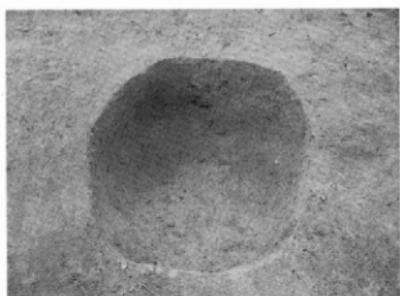
③ SK 127 土層



④ SK 127



⑤ SK 128 土層



⑥ SK 128

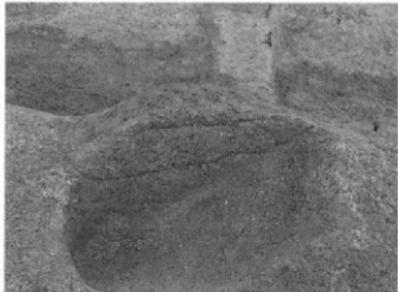


⑦ SK 158

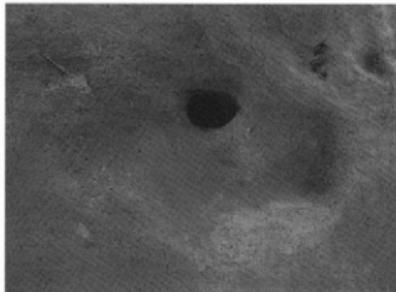


⑧ SK 129

3区その他の遺構



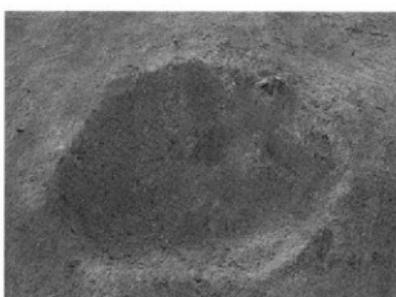
① SK 167土層



② SK 167



③ SK 168土層



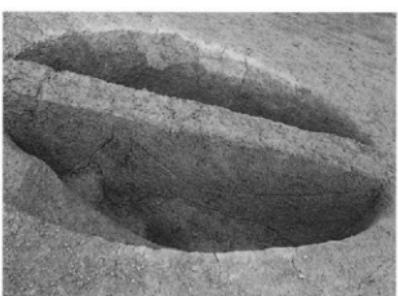
④ SK 168



⑤ 3-A区（南から）



⑥ 3-A区（西から）



⑦ SK 502土層

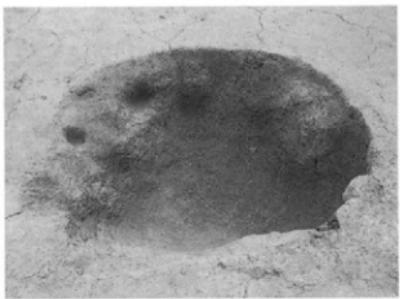


⑧ SK 505土層

3 | その他の遺構



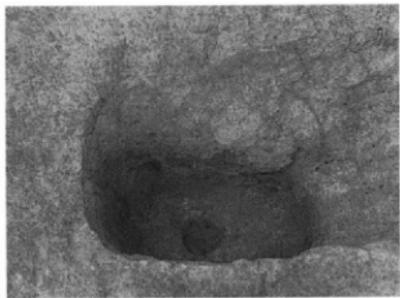
① SK 506土層



② SK 506



③ SK 510



④ SK 511



⑤ SK 509



⑥ SK 512遺物出土状況



⑦ SK 512土層



⑧ SK 512

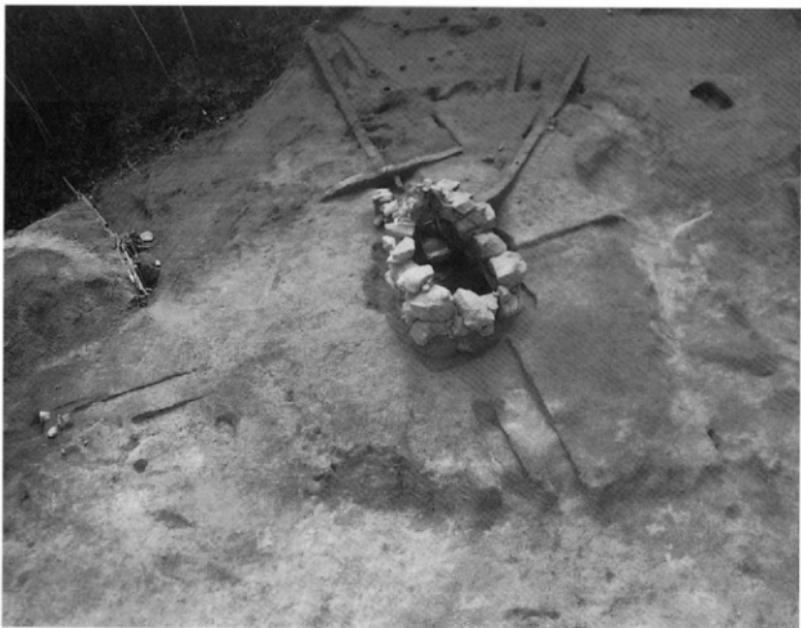


① 塗丘遺存遠景（西から）



② 塗丘遺存近景（東から）

F-2号塗丘



①地山整形（東から）



②石室奥壁

F-2号墳墳丘



①現況（北から）



②後円部現況（南から）



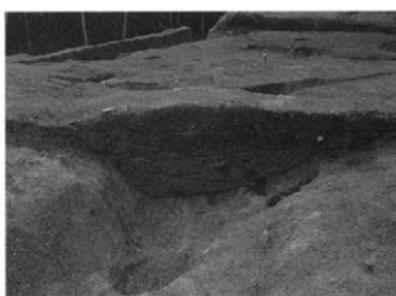
③ベルトB土層



④ベルトE土層



⑤ベルトD土層



⑥前方部端周溝土層



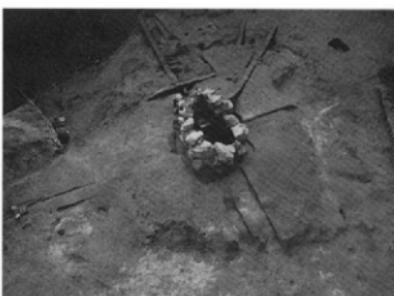
⑦後円部北側土層



⑧後円部南側土層



①前方部周溝



②地山整形（東から）



③地山整形（南西から）



④地山整形（北西から）



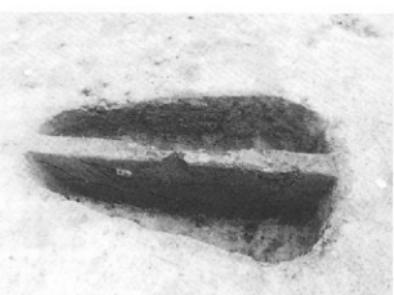
⑤地山整形（西から）



⑥石室掘方（北西から）



⑦石室遺物出土状況



⑧焼土坑 S K 401



①閉塞石 1



②閉塞石 2 (墓道から)



③閉塞石 1 (石室内から)



④石室奥壁



⑤右袖石



⑥玄室左側壁前側及び墓道部



⑦玄門部



⑧墓道部天井石



①現況（南から）



②現況（西から）



③墳丘遺存（北から）



④墳丘遺存近景（北西から）



⑤地山整形（北西から）



⑥地山整形（南から）



⑦墳丘・石室掘方土層



⑧墳丘・周溝土層



①石室傍瞰（北西から）



②石室全景（南西から）



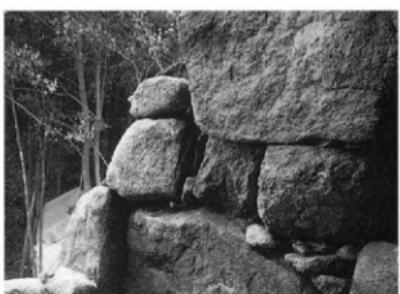
③石室



④玄室奥壁右侧



⑤玄室左侧壁



⑥玄室左侧壁茨道側



⑦玄室右侧壁茨道側



⑧填丘遺物出土状況



①現況（北西から）



②石室現況（南から）



③墳丘遺存（北西から）



④墳丘遺存（西から）



⑤地山整形（西から）



⑥地山整形（北西から）



⑦ベルトⅡ土層



⑧墳丘土層



①石室全景（南から）



②玄室右側壁

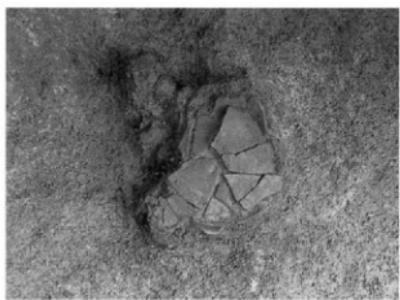
③玄室右側壁と奥壁



④石室掘方



⑤石室遺物出土状況



⑥玄室遺物出土状況



⑦玄室遺物出土状況

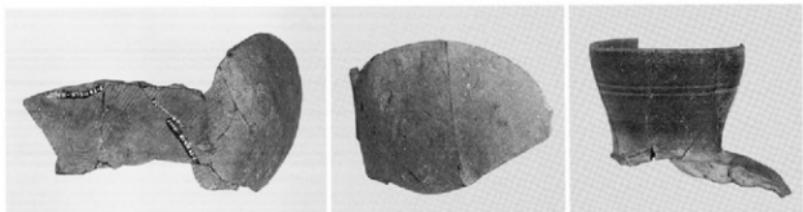


図13-1 (腹部)

図13-1 (体部横)

図14-7

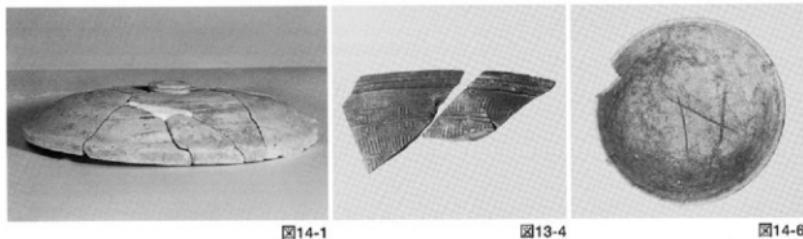


図14-1

図13-4

図14-6

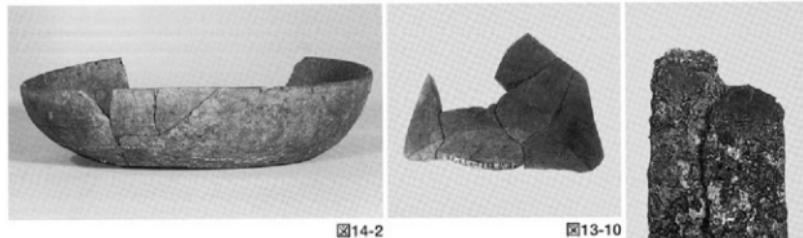


図14-2

図13-10

図15 鉄器

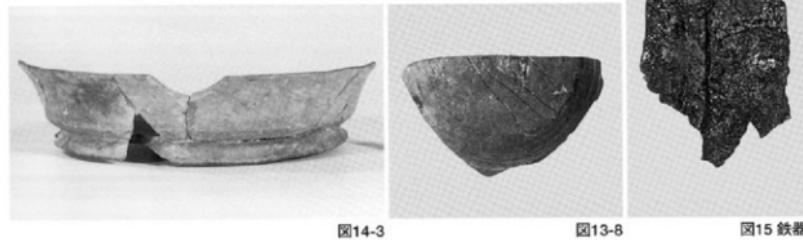


図14-3

図13-8

図36-2

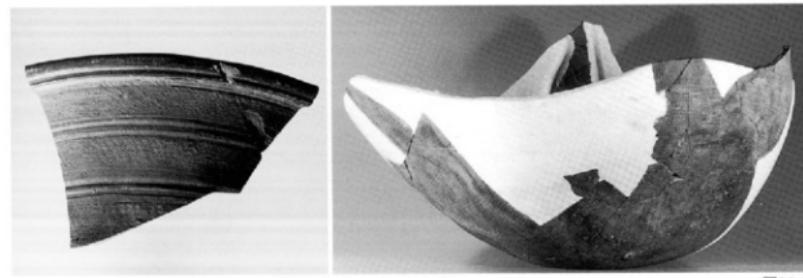


図36-1

図36-2

E-2号出土物 E-3号出土物



図36-2 (底部凹み)



図35-21



図35-14 (上は天井部ヘラ記号)

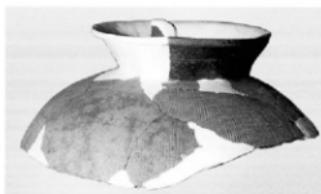


図35-6 (下は坏底部文様)

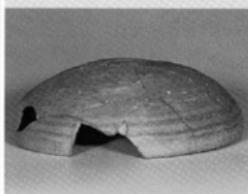


図35-14 (上は天井部ヘラ記号)

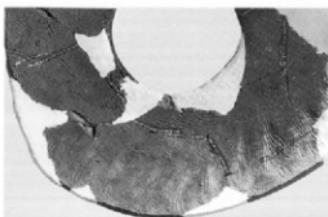


図35-21 (内面調整)



図35-5



図35-7 (上)・8 (下)

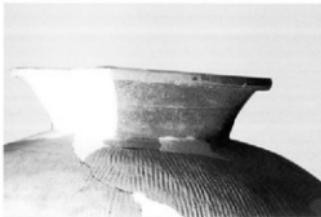


図35-21 (肩部上部～口縁部調整)



図35-10 (左), 図38-8 (右)

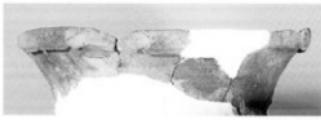


図35-23

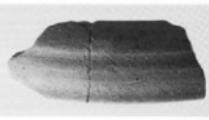


図35-15



図35-17 (下は底部ヘラ記号)



図37-15 (左)・18 (中)・16 (右)

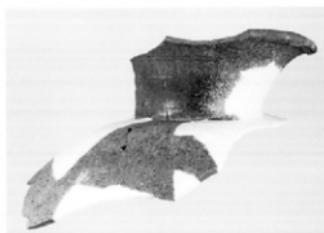


図38-1



図37-31 (左)・7 (右)



図37-2 (左), 図35-12 (右)



図38-2 (底部から)



図37-19 (上)・20 (下)



図38-6 (上), 図37-16 (下)



図37-36



図37-34

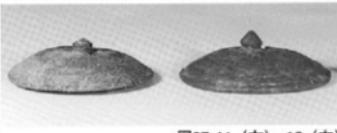


図37-11 (左)・12 (右)

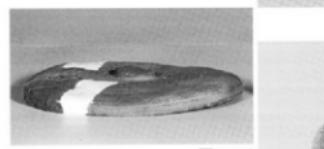


図37-27



図37-6



図38-10 (左), 図37-35 (右)

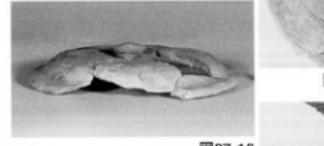


図37-10



図37-20 (ヘラ記号)



図37-19 (ヘラ記号)

図37-26 (ヘラ記号)

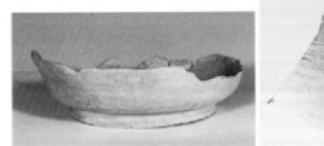


図37-28



図37-16 (ヘラ記号)

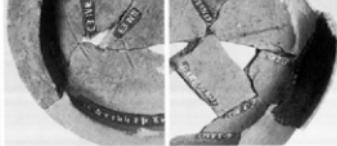


図38-10 (ヘラ記号)

図37-35 (ヘラ記号)

E-3号墳出土遺物



图38-11

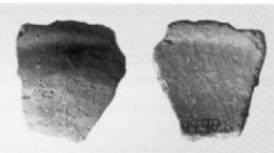


图39-1



图39-19



图41-18



图40-6



图40-2



图40-16 (左) • 17 (右)



图40-20 (上) • 21 (下)



图40-23 (左) • 25 (右)



图41-5



图41-1

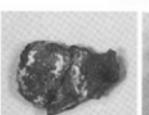


图41-3

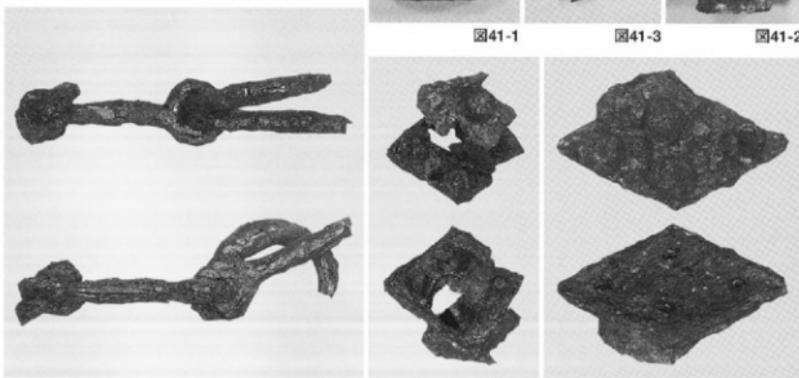
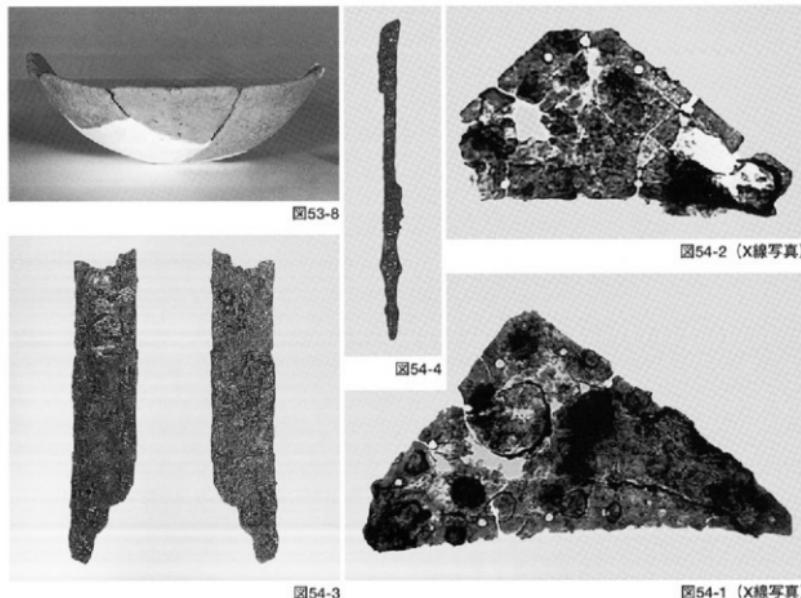
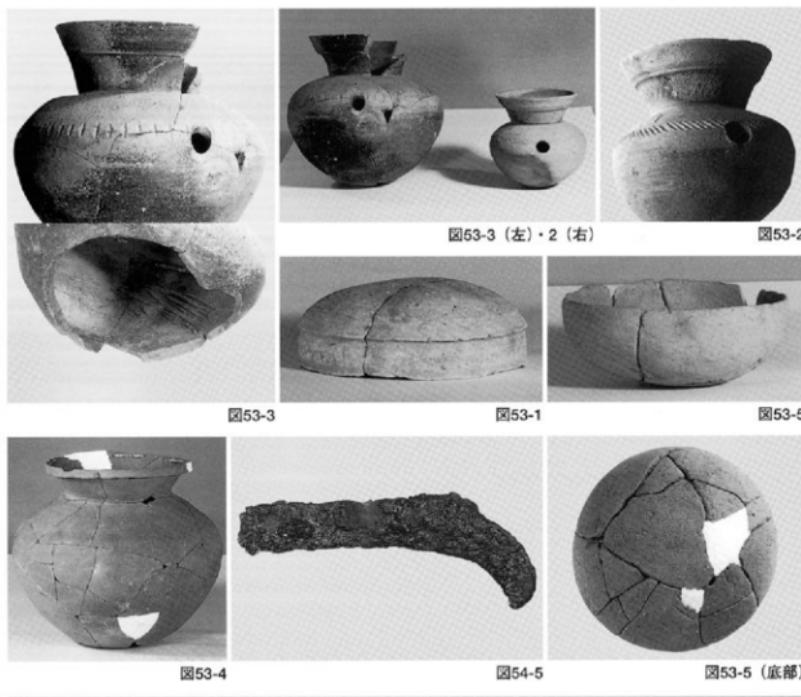


图41-15

图41-14

图41-16



E-1-2号墳、E-1-1号墳出土遺物



図72-2



図72-5



図72-6



図72-9



図72-10



図72-8



図72-13



図72-12



図72-23



図73-9

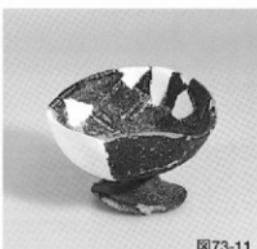


図73-11



図73-13



図73-16



図73-17



図73-19



図81-3

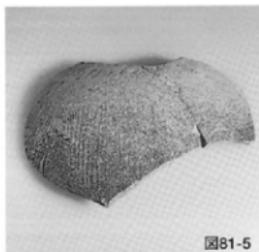


図81-5

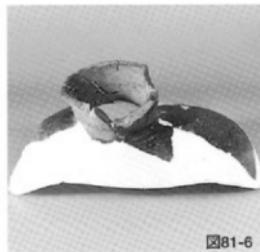


図81-6



図81-7



図82-3



図82-4



図82-6



図82-7



図82-8



図82-12



図82-14



図82-17



図82-18



図82-19



図82-20

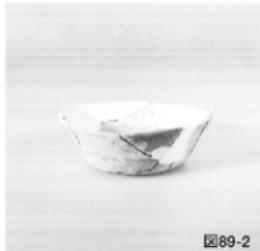


図89-2



図89-3



図89-6



図90-2



図90-3

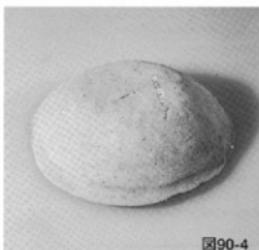


図90-4

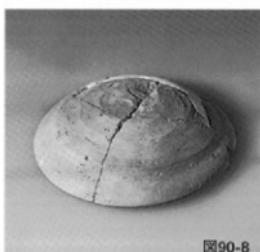


図90-8



図90-9



図90-13



図90-16

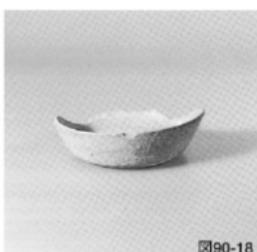


図90-18



図90-21



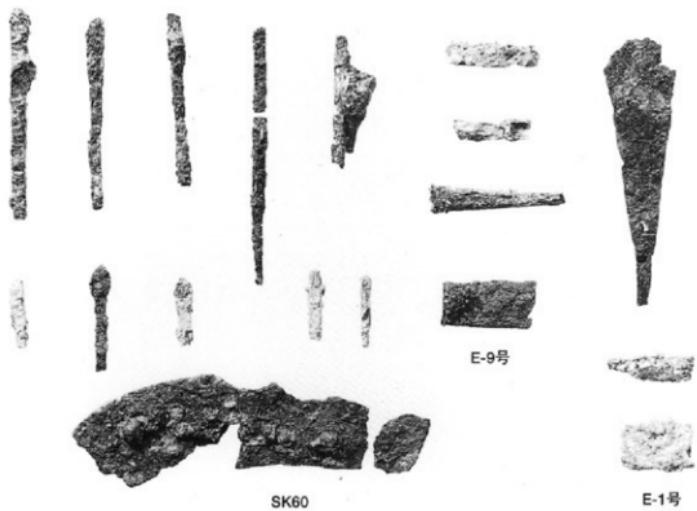
図90-24



図90-24



図90-26



SK60

E-9号

E-1号



E-10号



图103-1

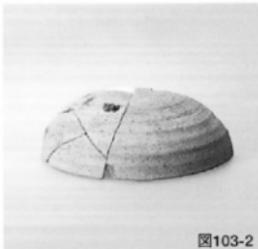


图103-2



图103-3



图103-6

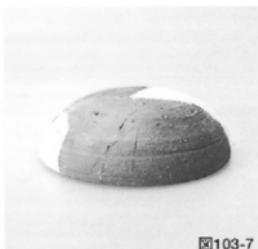


图103-7



图103-8



图103-9



图103-10



图103-11



图103-12



图103-13



图103-15



图103-17



图103-18



图103-20



図103-21



図103-22



図103-23



図103-24



図103-25



図103-26

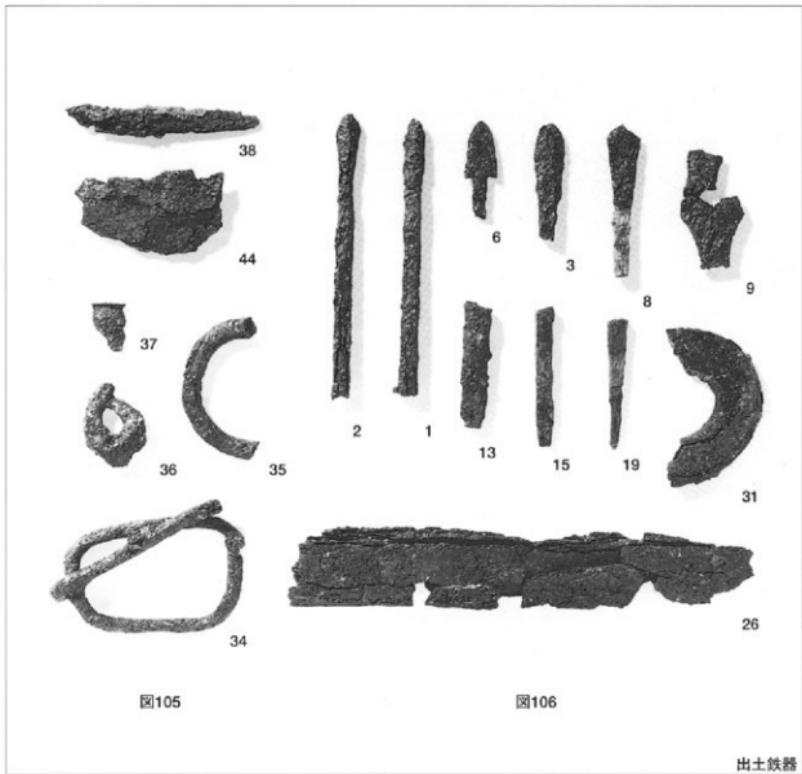


図105

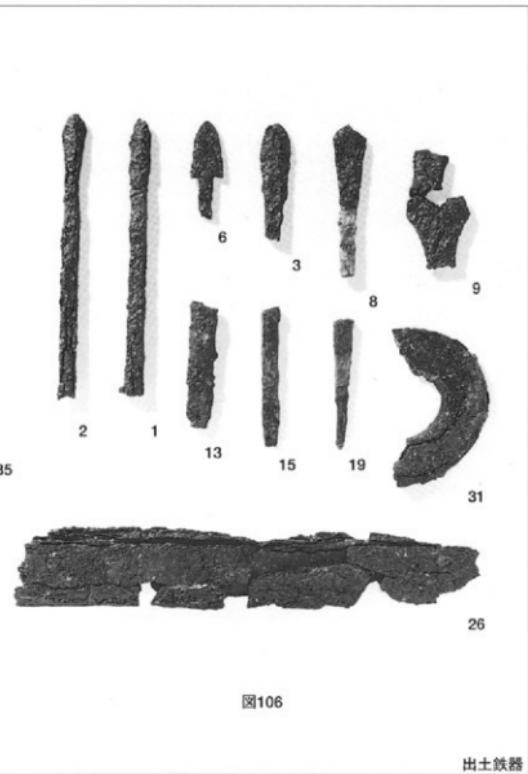


図106

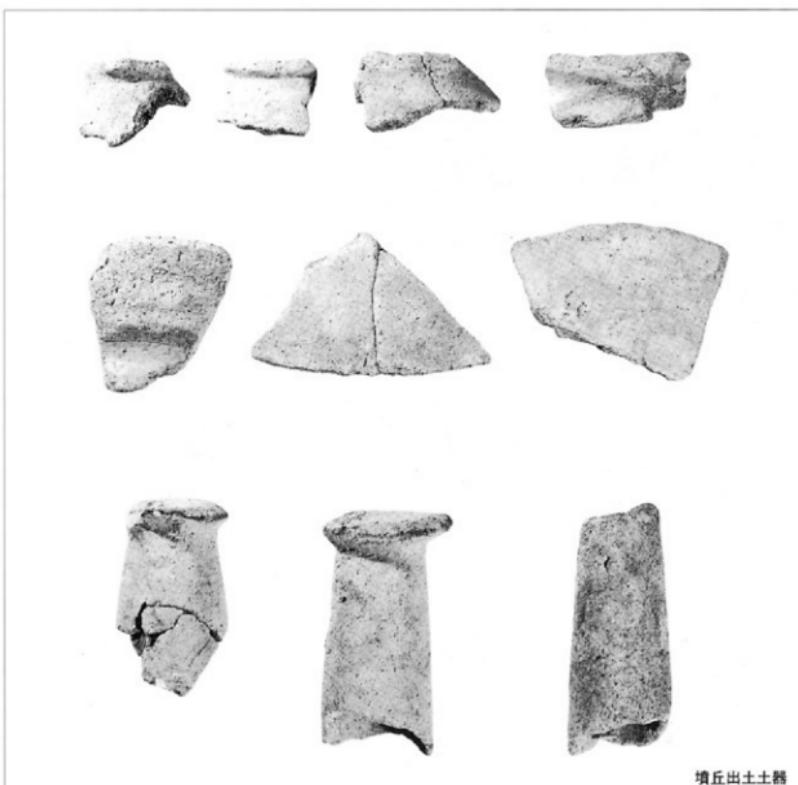
出土鉄器



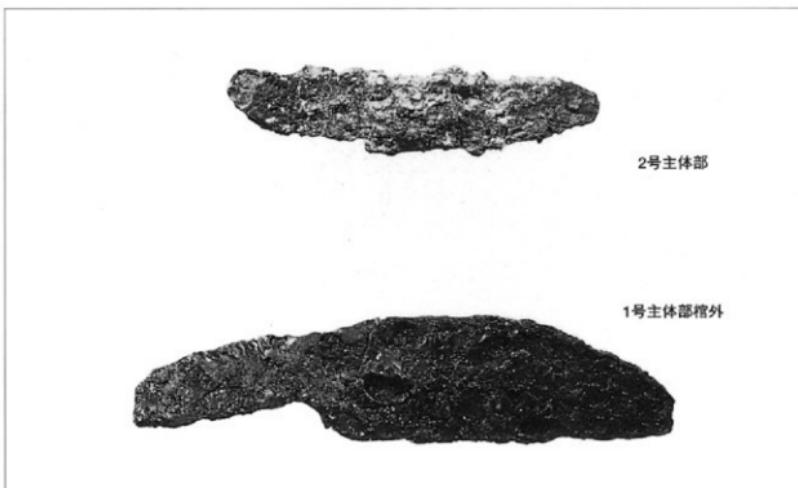
X線写真



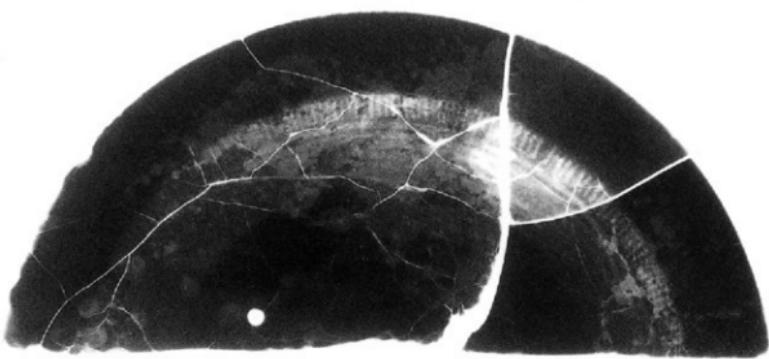
G-2号墳出土鏡



填丘出土土器



G—2号填出土遗物



G-3号墳出土鏡（下はX線写真）



鏡背



鏡面

G-3号墳出土鏡



图145-1



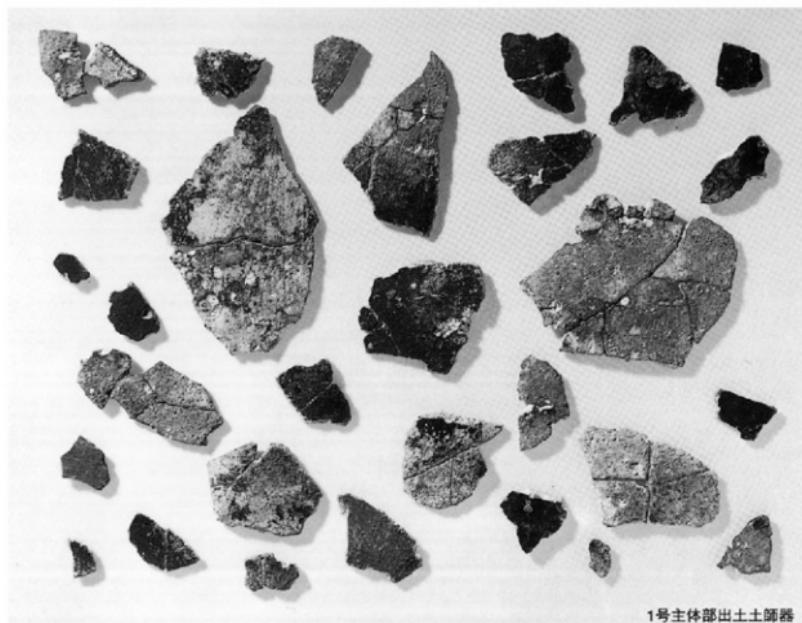
图140-1



图140-2



图140-3



1号主体部出土土筛器

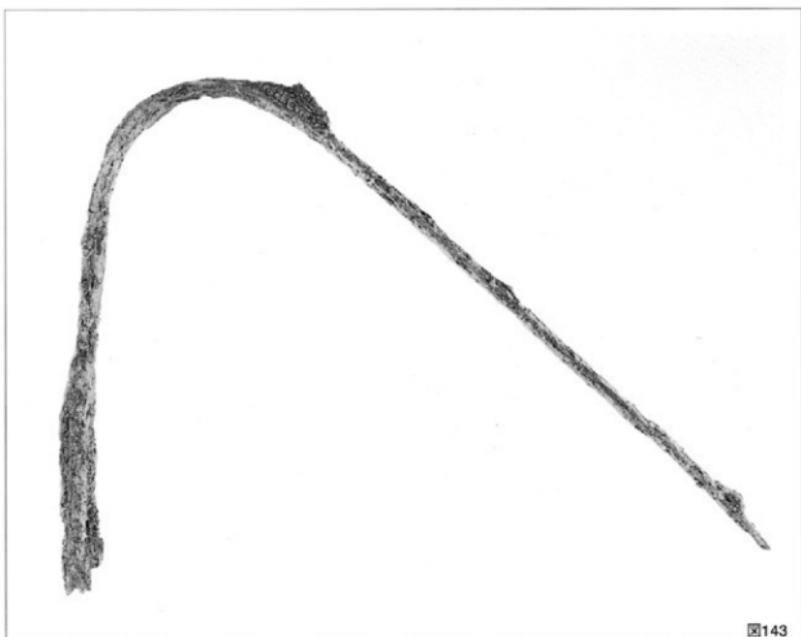


図143



図144

G-3号墳出土遺物



図154-1



図154-2



図154-4



図154-5



図154-6



図154-10



図154-11



図154-12



図154-13



図154-14



図154-15



図154-19



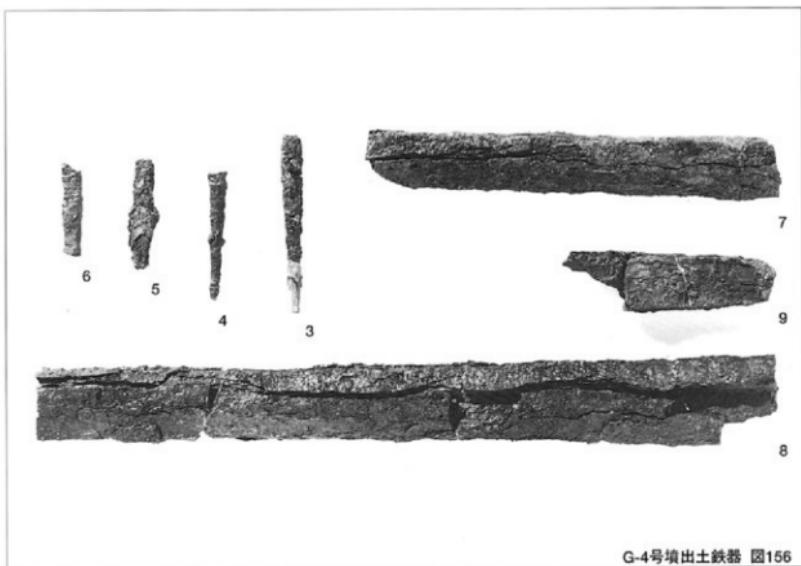
図154-20



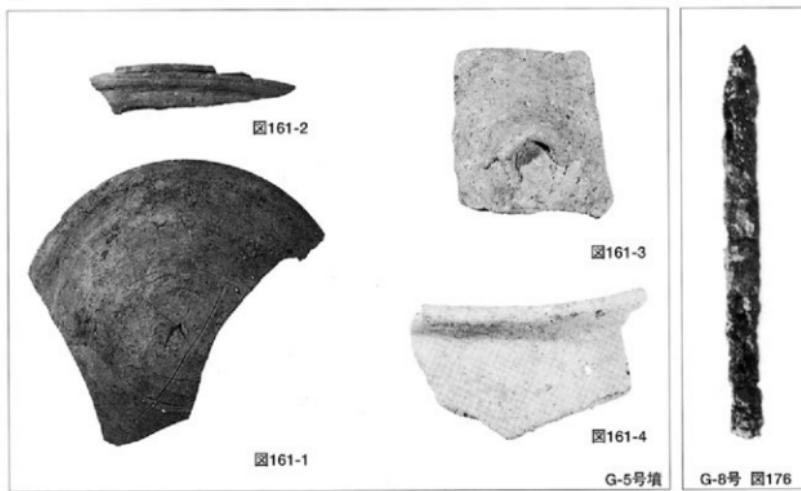
図155-5



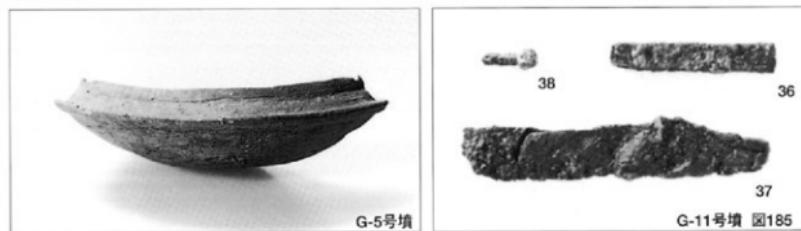
図155-6



G-4号墳出土鉄器 図156



G-5号填 図161



G-5・8・10・12号墳出土遺物

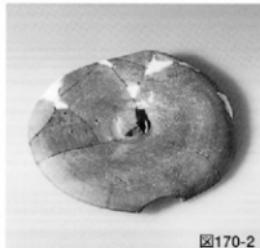


図170-2



図170-3



図170-4



図170-5



図170-8



図170-9



図170-11



図170-7

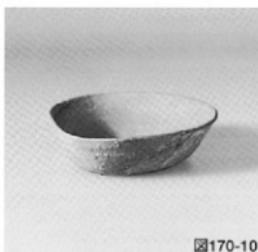


図170-10



図170-12



図170-14



図170-15



図170-17

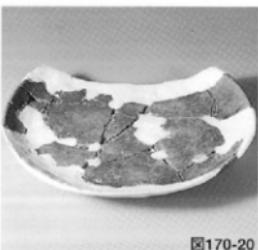


図170-20



図170-16



図207-1



図207-7

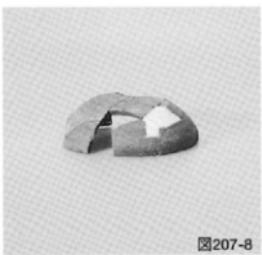


図207-8



図207-9



図207-10



図207-13



図207-18

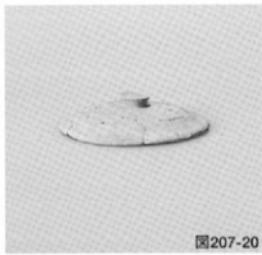


図207-20



図207-21



図207-25



図207-27



図207-30



図207-31



図207-33



図207-36



图208-2



图208-3



图208-7



图208-11



图208-12



图208-15



图208-18



图209-10



图209-11



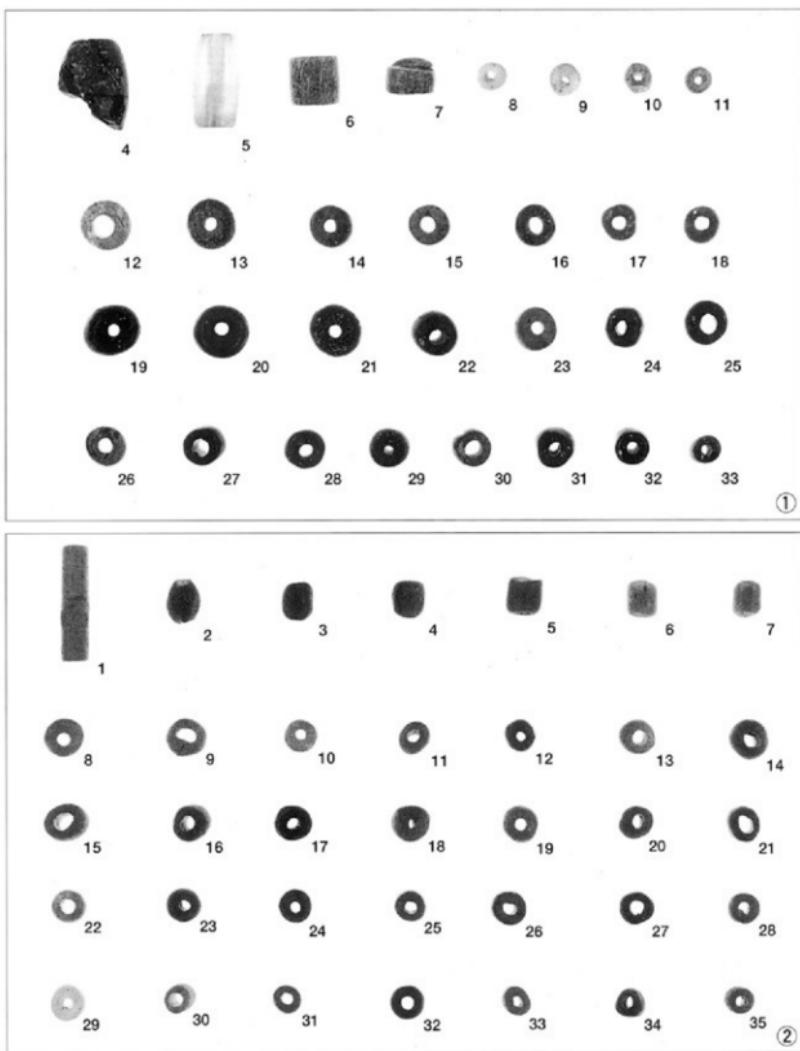
图209-13



图211-4



出土铁器



出土装飾品

- ①G-1号墳出土玉 (図105) ②G-1 1号墳出土玉 (図105) ③G-1号墳出土耳環 (図105)  
 ④E-9号墳出土耳環 (図82) ⑤F-2号墳出土耳環 (図213)

## 付 羽根戸南古墳群D-1号墳、E-4~8号墳発掘調査概要 ～飯盛西地区圃場整備関係調査第3・4次調査～

### 1 はじめに

1983年度～1986年度にかけて、西区羽根戸一帯で、飯盛西地区の圃場整備の事前調査として、当該地区的発掘調査が行われたが、ここで報告するのは、その第3・4次調査として行った、羽根戸南古墳群D-1号墳、E-4～8号墳とその周辺の発掘調査の概要である。調査は1986年2～3月に第3次調査としてD-1号墳を、1986年4月～9月に、第4次調査としてE-4～8号墳とD-1号墳東側地区（羽根戸宮遺跡）を行った。今回は、このうち古墳5基の概要について報告する。その他にも、D-1号墳と同時期の竪穴住居跡群や製鉄関連の遺構等が検出されているが、割愛する。

### 2 D-1号墳

#### (1) 位置と現況

調査した大半の古墳が乗る尾根のひとつ北の尾根下に位置する。この尾根の南下側が河岸段丘上に平坦面を成しており、その平坦面に作られている。この古墳の東で古墳と極めて近い時期の竪穴住居が5軒検出された。またこの古墳の北東側に一段上ったところに、D-2号墳がある。

#### (2) 墳丘

直径約15mを測る円墳である。墳丘上部はすでに削平されている。現況の高さ約40mを測る。地山整形時の周溝はほぼ完存し、石室入口部分を除いて溝が巡る。

#### (3) 主体部

主体部は単室両袖の横穴式石室である。玄室は激しい破壊を受けており、奥壁はまったくなく、

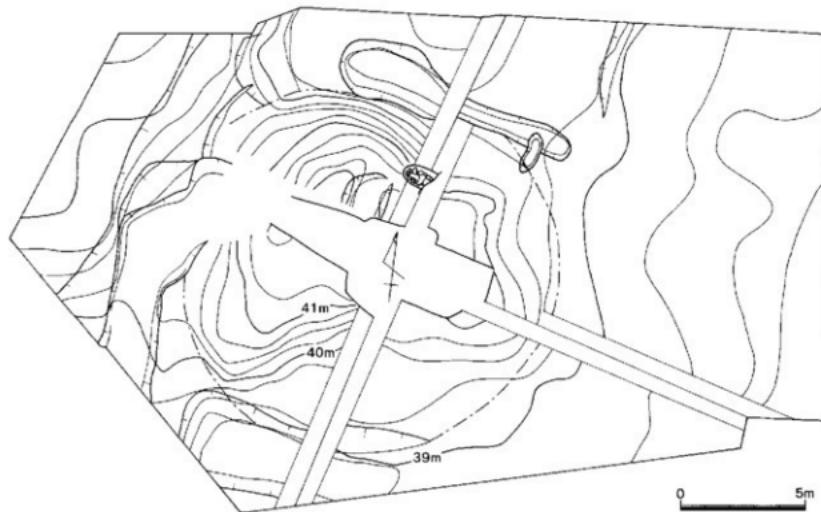


図1 D-1号墳墳丘測量図 (1/200)

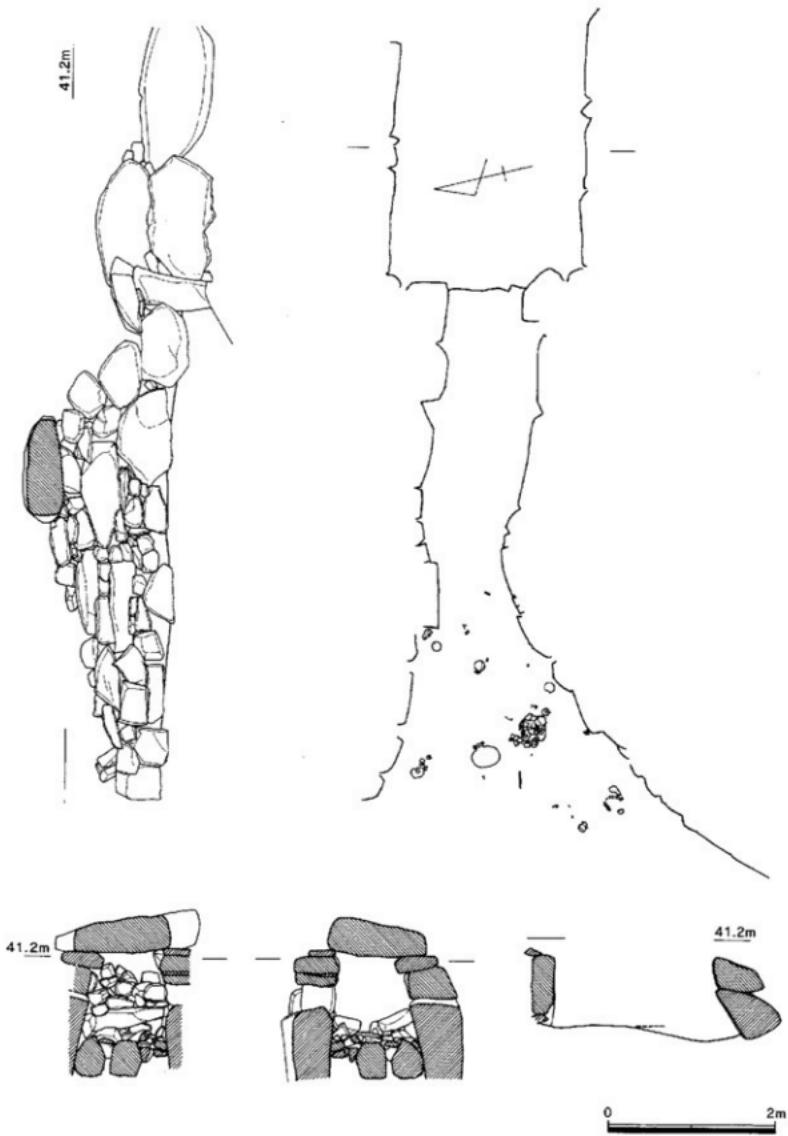


図2 D-1号墳石室 (1/60)

他の3面も腰石のみが遺存し、腰石から上部はまったくない。床面も下げられているが、残存する腰石や袖石の高さから考えれば、そもそも羨道部よりやや低かったものと考えられる。仕切石は残存しない。本来羨道部から一段下りた玄室側にあったものと思われる。羨道部は比較的良好残り、天井石も1石残存している。前部も残りが良く、副葬品と考えられる一群が出土した。奥壁の抜き跡から玄室プランを類推すれば、長さ約3m、幅約1.9mの長方形プランである。腰石は左右両面は2石から成る。羨道部は長さ約3.8m、幅約1mを測る。ほぼまっすぐ伸びている。閉塞は40cm程の礫を羨道部全面に積んでいる。少なくとも2面は確認できた。羨道部からそのまま壁が伸びて前部・墓道を形成している。右壁は緩やかに弧を描き、そのまま墳丘外の墓道に続く。前部からは多くの遺物が出土した。須恵器の完形品（壺・平瓶など）、鐵鏡、鐵製、鐵滓、耳環などである。これらの出土品は高さを違えて出土しており、中には通常玄室で出土する遺物もあることから、搔き出し遺物と、本来ここに副葬した遺物にわかれると考えられる。出土した須恵器は概ね6世紀後半代の須恵器であった。

#### 小石室

北側墳丘を掘り込んで小石室が1基作られている。トレンチ掘削時に小口部を破壊してしまった。花崗岩を豎穴式石室状に積んだもので、古墳築造後に構築されている。副葬品はない。

### 3 E-4号墳～8号墳の位置

今回調査したE-12号墳の東側に位置する。E-12号墳から伸びる丘陵はダラダラと東に緩やかに下り、先端部は人工的な崖面になっている。E-12号墳のすぐ東側にE-4号墳があり、以下東に向かって6・7・8号墳と一直線上に並び、4号墳と6号墳の間の北側に5号墳がある。各古墳とも石室は破壊されているものの、墳丘の遺存度は比較的良好。ただし、8号墳のみは墳丘・石室ともに壊滅的な破壊を受けている。E-4号墳～6号墳は、羨道部が極端に短いか無羨道の類似した石室を有する古墳である。

### 4 E-4号墳

#### (1) 墳丘

直径約9mを測る円墳である。古墳の頂部は削平されている。現況の標高46mを測る。古墳の周囲には、石室入り口部分を除いて周溝を巡らしている。

#### (2) 主体部

主体部は両袖單室の横穴式石室で、無羨道、もしくは極端に短い羨道部を有する石室である。西側に開口する。玄室は中央部の長さ2.6m、奥幅2m、前幅1.3mを測る羽子板プランを成している。玄室の一段目は高さ20～40cm、幅40cmほどの石を、右壁は7枚、奥壁は5枚並べている。左壁は中央部分に横長の石を配している。両袖は玄室と同様の積み方で作っている。両袖の間には框石がある。框石は縦長い石を横に置き、玄室内に傾けている。この框石に80×50cm、厚さ10cmの薄い板石を乗せて閉塞している。玄室奥壁近くの床面には20～30cm大の礫を敷いている。玄門部外側の両側には長さ70～90cmほど石を積み、前庭部を作っている。前庭部から墓道の床面は玄室より一段高く、ゆるやかに上り、そのまま古墳外へと続いている。床面の断面形は逆台形に近く、壁面が高く中央部分が低い。その比高差は前庭部で約50cmを測るが、古墳裾部近くではほぼ平坦となる。

### 5 E-5号墳

#### (1) 墳丘

直径9mを測る円墳である。古墳の頂部は削平されている。現況の標高約46mを測る。古墳の周囲には、石室入り口部分を除いて周溝を巡らしている。

#### (2) 主体部

主体部は両袖單室の横穴式石室で、無羨道の石室である。南西側に開口する。玄室は中央部の長さ約

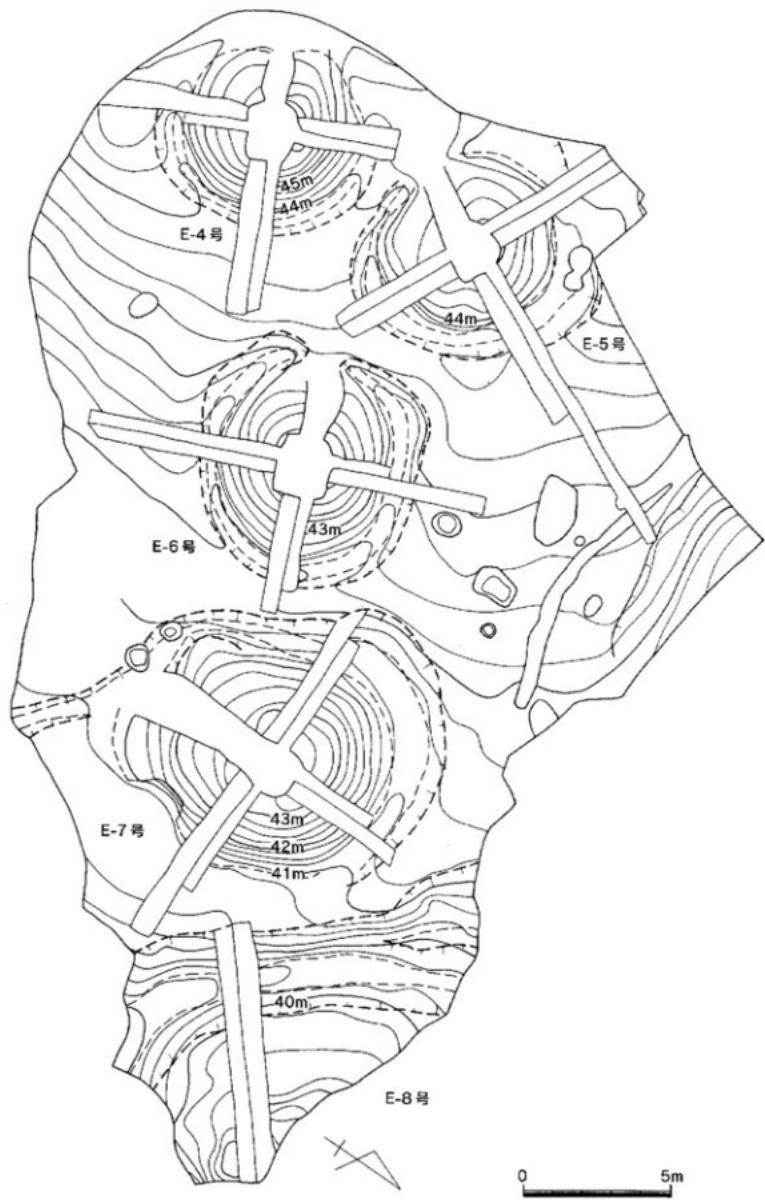


図3 E-4~8号墳墳丘測量図 (1/250)

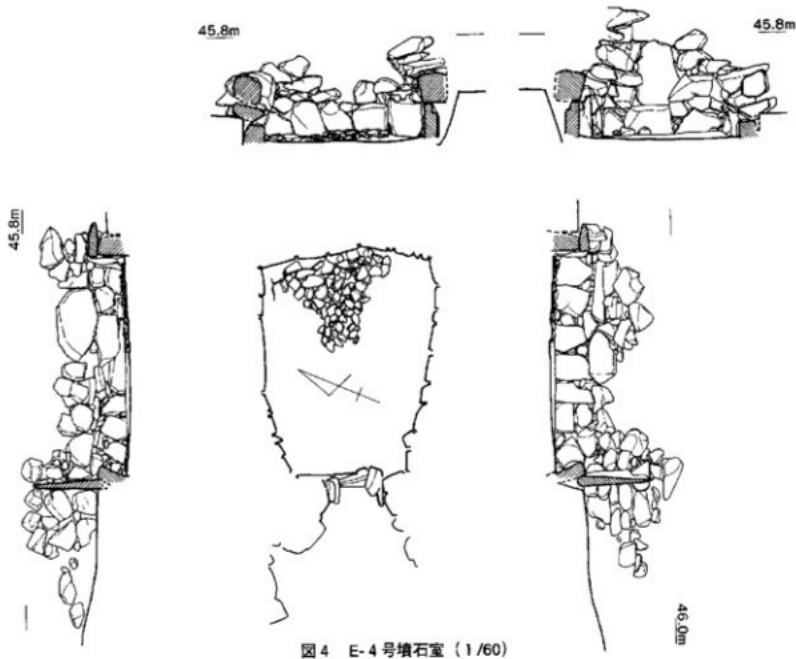


図4 E-4号填石室 (1/60)

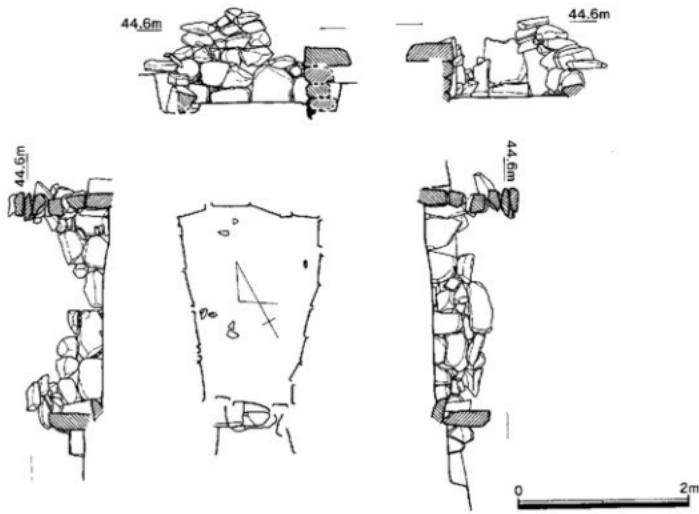


図5 E-5号填石室 (1/60)

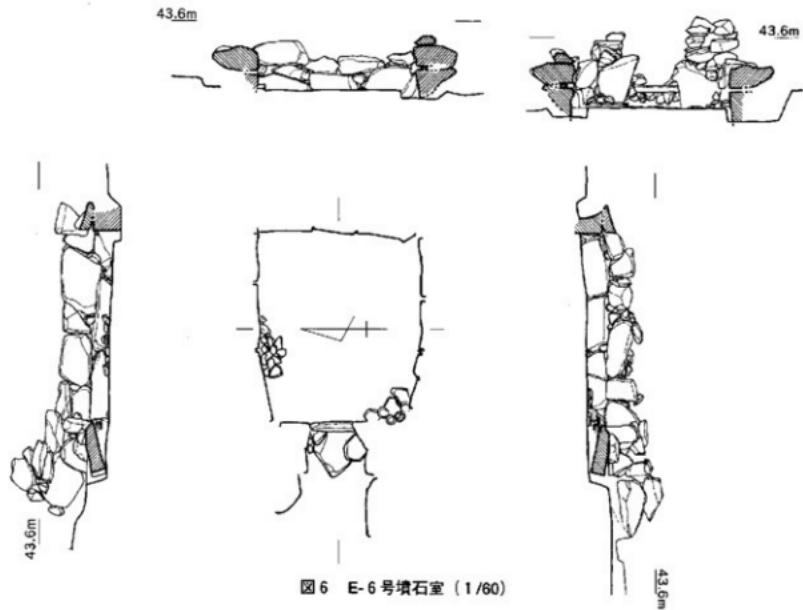


図6 E-6号墳石室 (1/60)

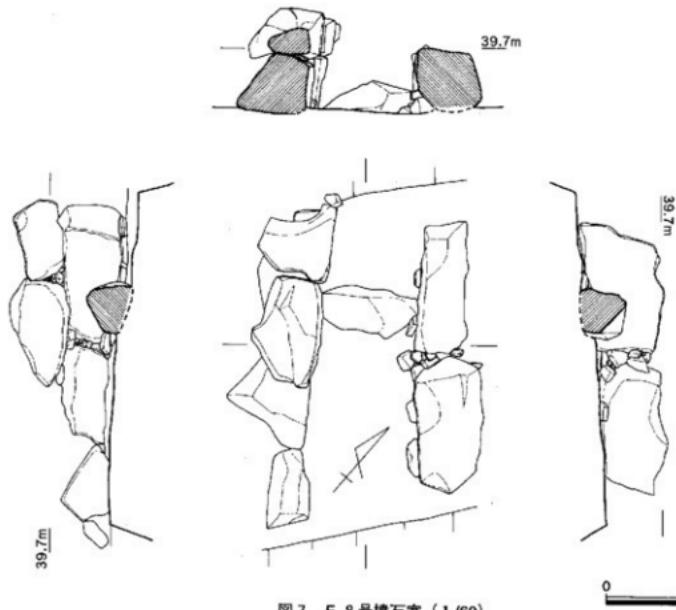


図7 E-8号墳石室 (1/60)

2.3m、奥幅1.7m、前幅1.1mを測る羽子板プランを成している。玄室の一段目の壁は、E-4号墳と同様の石材を、右壁は継長に石材を使い7枚、左壁は横長に石材を使い5枚並べている。奥壁は4枚の異なる大きさの石を配している。両袖は玄室と同様の積み方で作っている。両袖の間には框石がある。框石は細長い石を横に置き、玄室内にかなり傾けている。この框石に50×50cm、厚さ20cmのやや厚めの板石を乗せて閉塞している。

玄門部外側の両側には1石を置き、前庭部を作っている。上部が破壊されているため、この上に石を積んでいたか不明である。前庭部から墓道の床面は玄室より一段高く、ゆるやかに上り、そのまま古墳外へと続いている。

## 6 E-6号墳

### (1) 墳丘

直径9mを測る円墳である。古墳の頂部は削平されている。現況の標高約44mを測る。古墳の周囲には、石室入り口部分を除いて周溝を巡らしている。

### (2) 主体部

主体部は両袖单室の横穴式石室である。西側に開口する。玄室は中央部の長さ2.3m、奥幅2m、前幅1.6mを測る、長方形に近い羽子板プランを成している。玄室の一段目の壁は、前2基と異なり、低い横長の石を左右の壁は4石、奥壁は3石で構成している。その上も横長の石を積んでいる。両袖は板石で作っている。両袖の間に横たわっている石は前の2基と同じ構造であることから框石と考えられ、閉塞石は現存しない。框石は両袖と面を合わせて据えている。据える際には両袖間にまず小石を並べ、玄室側が高くなるように框石を据えている。玄門部から外は前2基と異り、床面を玄室より一段高く平坦近くに作っている。玄門から左側は70cm、右側は90cm石を積んでいる。ここも他の2基とは異なり、しっかりした積み方を成しており、天井がかかっていた可能性がある。玄室床面の一部には疊敷きが残っている。右壁の手前隣に須恵器の环と坏蓋がセットで出土した。

## 7 E-7号墳

### (1) 墳丘

直径13mを測る円墳である。古墳の頂部は削平されている。現況の標高約43.6mを測る。古墳の周囲には、石室入り口部分を除いて周溝を巡らしているが、東側は削平のためか、判然としない。

### (2) 主体部

主体部は両袖单室の横穴式石室である。南西側に開口する。玄室は中央部の長さ2.4m、奥幅1.9m、前幅1.6mを測る、長方形に近い羽子板プランを成している。玄室の一段目の壁は、腰石となり、右壁は2石、左壁は3石、奥壁は2（+1石）である。2段目以上はやや小振りな石を積んでいる。両袖は厚い板石で作っている。両袖の間に、前3基と同様な方法で框石を配している。框石の表面は露出しているが、本来はこの上に土を置いて玄室より一段高く床面を作っているのではないかと推察される。壁面上部がないため、羨道部の長さは不明だが、右壁の玄門部1石のみが大きく、この石の部分までが床面が平坦で、閉塞石がここまであることから、羨道部はこの部分までと考えられる。羨道部の床面は玄室より一段高くなっている。框の先端から40cm先に板石の閉塞石がある。板石の手前に塊石積みの閉塞があり、さらに50cmの空間を挟んで別の積み石がある。羨道部の壁はそのままゆるやかに弧を描きながら延長している。床面はしだいに降下している

## 8 E-8号墳

### (1) 墳丘

墳丘本体は約1/4以下、高さは現況で約2m遺存している。上部はまったく遺存しないが、墳丘を

巡る周溝が残存している。周溝幅は0.8~1.4mと広く、深さも1.3mと深い。周溝の立ち上がりを埴縫として、石室主軸で折り返すと、その径は20mを超す。但し、周溝は円形を呈しておらず、南側はそのまま埴丘に沿って弧を描いているが、北側は弧を成さずに直線上になる。

## (2) 埋葬施設

主体部はほとんど遺存していない。残存しているのは腰石3石と二段目の石2石、仕切石1石である。

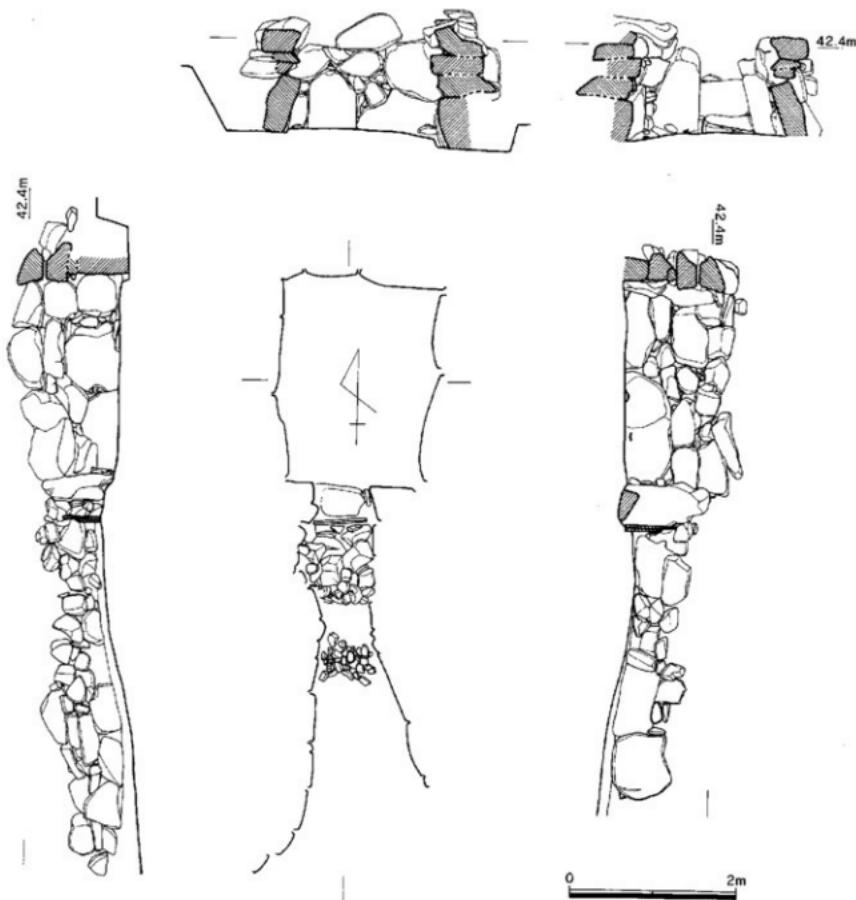


図8 E-7号墳石室 (1/60)

幅が約1.4mで、途中に仕切石があることから羨道部と考えられる。最南端の腰石が小さく、仕切石の面が北側が揃っている等を考慮すれば、北側に玄室がくるものと考えられる。そうすると、現況から考えて、玄室側にもう1石くると思われ、羨道部長は2.5mを超すものと思われる。類似の石室から考えれば、玄室幅は3m近く、玄室長はそれ以上になると考えられる。

## 9 おわりに

15年近く前の調査なので、記憶もあいまいになってきており、早く調査報告を作成しなければならないが、諸般の都合で遅れてしまっている。ここでは、出土遺物及び構造から概略の時期設定と簡単に本古墳群の特徴をまとめる。

E-4・5号墳は無羨道のいわゆる北部九州型と呼ばれる石室である。羽子板プランに「ハ」字に短く開く入口部の壁を持つ。ただし5号墳が4号墳より幅広で、入口部壁体もわずかに長いことから5号墳の方が新しい要素を持っている。6号墳も近いタイプの石室であるが、玄室プランが長方形に近くなり、入口部の壁がまっすぐ開き、壁体もしっかりしていることから、天井石が乗る羨道部として、機能していたと考えられる。7号墳になると玄室一段目壁体が腰石となり、羨道部が明確となる。さらに前庭部に長い石壁を採用している。ただし、前庭部の壁は追葬時に付け足した可能性もある。これら4基の石室は、形態的に見てほぼ一連の流れの中で変化していったことを示している。

出土遺物も豊富にあり、E-6・7号では墳丘にまとまった須恵器があり、D-1、E-5・7号墳では石室や前庭部でまとまった遺物群があり、他の古墳も石室や周溝の埋上から完形に近い須恵器が出土している。それらの遺物を見ると、検討を行っていないため、詳細な検討は避けたいが、E-4～5号墳が5世紀末～6世紀初め前後、6号墳が6世紀前半代、7号墳が6世紀半ば前後の時期、8号墳とD-1が6世紀後半代の須恵器が出土している。ただし、出土遺物のごく一部しか図化していないため、あくまでも速報的な時期と考えて頂きたい。各時期の初葬を古い遺物の時期にあてはめれば、從来の石室編年とは矛盾しない。E-4～8号墳は西側から順番に築造されていったと考えられる。さらにその西側にはE-11・12号という、2基の5世紀代の古墳があり、この2基を合わせて一群のものと考えられる。E-11・12号はほぼ同時期、E-4・5号墳はほぼ同時期、E-7号墳はG-4号墳とほぼ同形態、またE-3号墳はG-1号墳とほぼ同形態で、すべての古墳ではないが、近い形態の石室がこの一連の尾根の中に2基ずつある可能性が考えられる。

E-8号墳は墳丘・石室とともに大きく、円墳とすると直径20mを超える。前方後円墳の可能性も捨て切らない。残念ながら破壊を受けているため、詳細はわからないが、早良平野では該期の盟主墳としては乙石夫婦塚古墳群があるだけなので、今後報告書を作る際に検討したい。

## 羽根戸南古墳群

—図版編—

福岡市埋蔵文化財調査報告書

（第661集）

編集・発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神一丁目8-1

平成13年3月30日

☎092(711)4667

印 刷 久野印刷株式会社

福岡市中央区天神5-5-8

# HANEDO-MINAMI MOUND BURIALS

THE REPORT OF THE ARCHAEOLOGICAL EXCAVATION OF THE ANCIENT TUMULUS,  
HANEDO-MINAMI MOUND BURIALS,  
IN FUKUOKA CITY, JAPAN

March 2001  
THE BOARD OF EDUCATION, FUKUOKA CITY